

ダニが運ぶ感染症に注意



どんな病気？

- ・ダニによる感染症には、「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」のほか、「つつが虫病」「日本紅斑熱」「回帰熱」「ライム病」「ダニ媒介脳炎」などがあります。
- ・主な症状は発熱ですが、意識障害や出血症状など重篤な症状をきたす致死率の高い疾患もあります。

※ここでの「ダニ」には屋内で生息するコナダニ類、チリダニ類などは含みません。



葉に潜むマダニ

どうやってうつるの？

- ・主にダニに咬まれることで感染しますが、すべてのダニが病原体を持っているわけではありません。
- ・ダニは日本全国に分布しており、特に野生動物が生息する自然環境が豊かな場所に多く生息しますが、市街地周辺でも自然が豊かであれば、畑やあぜ道、河川敷にも生息していることがあります。

どうやって防ぐの？

- ・野山や河川敷などで野外活動を行う場合は、長袖・長ズボンを着用し、肌の露出を控えましょう。
- ・帰宅したら、衣類や体にダニが付いていないか、よく確認しましょう。シャワーで全身を洗い流すことも有効です。
- ・着用していた衣類はすぐに洗濯するなど家の中で長時間放置しないようにしましょう。
- ・ダニに効果があると記載されている虫よけ剤（有効成分：ディート、イカリジン）も市販されています。虫よけ剤を使うことで、ダニの付着数は減少しますが、付着を完全に防ぐわけではありません。
- ・ペットもダニに咬まれないことが重要です。動物病院にマダニの駆除・予防薬の投与を相談するとともに、散歩後はペットの体表をチェックし、ダニを室内に持ち込まないように注意しましょう。

明るい色の服を着る
(ダニが付いているか確認しやすいため)



首にはタオルを巻くかハイネックのものを着用する

長袖を着用し、袖口は手袋の中へ
シャツの裾はズボンの中へ

ズボンの裾は長靴の中へ
シューズの場合はズボンの裾に靴下をかぶせる

マダニに咬まれたら？

- ・マダニに咬まれたときに、虫を無理に取り除こうとすると、病原体が体内に入ったり、皮膚の中に虫の一部分が残ることがあります。自分で取り除こうとせず、必ず医療機関を受診し、処置してもらいましょう。
- ・また、マダニに咬まれた後、数週間は体調の変化に注意し、発熱などの症状がみられた場合も医療機関を受診しましょう。

お問い合わせは
お近くの保健所へ

